

黒毛和種県産種有牛「房平茂」「平福国1」「来待招福」の作出

産肉能力検定（直接法）で選抜された候補種雄牛について、同検定（間接法）を実施し遺伝的産肉能力を推定しました。

その結果、3頭の候補種雄牛の検定成績が特に優れていたことから、凍結精液の供給を開始しました。これら種雄牛の本県和牛改良増殖への貢献が期待されます。

種雄牛造成の概要

基幹種雄牛と基礎雌牛との交配により雄子牛を生産し、直接法により増体能力や飼料効率および体型等を調査し、間接法を行う種雄牛候補牛を選抜します。間接法では候補牛の産子（去勢牛）8頭を肥育し、枝肉調査を行い、優れた個体を選抜して基幹種雄牛とします。基幹種雄牛となった種雄牛について、凍結精液を供給し、優秀な能力を広く県下に普及させるとともに、次世代の種雄牛候補牛を生産します。

表1 「房平茂」「平福国1」「来待招福」間接検定成績(kg, cm², cm, %)

項目	房平茂 (n=7)	平福国1 (n=7)	来待招福 (n=7)	全国平均 (n=233)
血統				
1代祖	平茂勝	平茂勝	安福165の9	
2代祖	北国7の8	安福165の9	菊谷	
3代祖	紋次郎	北国7の8	奥谷	
日増体量	0.97 ± 0.07	1.00 ± 0.12	0.85 ± 0.12	0.98 ± 0.14
1kg増体TDN	6.72	6.33	6.83	-
枝肉重量	412 ± 25	409 ± 30	346 ± 48	376 ± 43
枝肉歩留	62.0 ± 1.8	62.7 ± 1.5	62.0 ± 0.8	-
ロース芯面積	48 ± 6	48 ± 5	49 ± 6	48 ± 6
皮下脂肪厚	2.1 ± 0.3	3.1 ± 0.5	1.9 ± 0.4	2.3 ± 0.6
ハラの厚さ	6.9 ± 0.9	7.2 ± 0.4	6.3 ± 0.7	6.8 ± 0.8
推定歩留	73.2 ± 1.0	72.6 ± 0.7	73.9 ± 0.7	73.5 ± 1.0
脂肪交雑	3.5 ± 0.9	3.9 ± 1.1	4.4 ± 0.8	3.1 ± 1.0
枝肉格付	A5:5 A4:1 B5:1	A5:5 B5:2	A5:7	A5:60.9% A4:25.8%

産肉能力検定(間接法)の概要

「房平茂」「平福国1」は、肉量肉質に優れた成績であり、ともに枝肉重量および脂肪交雑については全国平均を大きく上回りました。

「来待招福」は肉質に非常に優れた成績であり、脂肪交雑 4.4 は間接検定成績全国歴代 1 位の成績です。しかしながら、肉量については全国平均より劣りました。

産肉能力の特徴と交配ポイント

【房平茂】

肩付が悪い傾向があるため、肩付の悪い母体への交配は避けたい方が良いでしょう。肉質を落とさずに肉量を向上させるのに適しています。

【平福国1】

検定成績において肉質、肉量ともに優れた結果を出しており、特に菊谷母体で優れていた。肉質の改良とともに、肉量の改良が期待できます。

【来待招福】

極めて優秀な肉質の能力を有していますが、増体能力は劣ります。増体系への交配により質量兼備の産子が期待できます。一方、資質系への交配は重量が小さくなる恐れがあるため、注意が必要です。



房平茂【調査牛 No.5】	平福国1【調査牛 No.6】	来待招福【調査牛 No.6】
母の父：菊谷	母の父：菊谷	母の父：糸晴
祖母の父：恒徳	祖母の父：恒徳	祖母の父：福昌
枝肉重量：402 kg	枝肉重量：381 kg	枝肉重量：259 kg
BMSNo.：12	BMSNo.：12	BMSNo.：12
枝肉格付：A 5	枝肉格付：A 5	枝肉格付：A 5